

ぬかた便り

岡崎市立額田図書館
秋号 No. 40
2016年9月発行

芸術の秋



虫の鳴き声が、秋を感じさせる季節となりました。秋といえば……芸術の秋。

近年人気の江戸時代の画家、伊藤若冲（いとう じゃくちゆう）は、今年で生誕 300 年。春、東京都美術館で「若冲展」が開催され話題となりました。また、今年没後 300 年を迎える江戸時代の画家は、尾形光琳（おがた こうりん）。そこで今回は、『光琳・若冲 に関する本』を紹介します。

人物像



『もっと知りたい

尾形光琳』

仲町 啓子／著

東京美術 721.5 モ



『若冲』

澤田 瞳子／著

文藝春秋 913.6 サワ



表紙に使われている「燕子花図屏風（かきつばたずびょうぶ）」は光琳が絵師として高い位（法橋）の称号を与えられた 40 代半ば頃に制作され、光琳はその後もかきつばたをモチーフにした作品を多数制作しています。同じかきつばたの絵でも花びらの色の濃淡や自然風かデザイン風かによる作風の変化によって違った印象を受けます。

光琳の有名な作品を、もれなく知っておきたい方におすすめです。

京都 錦小路の青物問屋「枳源」の 4 代目、伊藤源左衛門（若冲）。

絵に没頭し作品を描いていく様子や、交流のあった相国寺の大興和尚、同時期の画人などとのやりとりが、異母妹のお志乃の目を通して語られていく物語。

若冲の世界にひきこまれ、描いた作品にも興味が湧きます。



『異能の画家

伊藤若冲』

狩野 博幸／ほか著

新潮社 721.4 イ



『江戸絵画の

不都合な真実』

狩野 博幸／著

筑摩書房 721.0 エ

若冲が、43 歳頃から約 10 年間かけて制作した代表作の「動植綵絵（どうしょくさいえ）」は、動植物を描いた彩色画の掛け軸で、30 種全ての写真が掲載されています。

「質の良い画材と画絹の裏から顔料を塗る技法『裏彩色』を用いていることで今も豊かな色彩を保っている」と言われるのが、写真からも伝わってきます。

本書によると、「若冲は、現実生活の重みから逃れるために絵画に専心したイメージだが、よく調べると、現実から逃避するどころか、理不尽な現実とがっぷり四つに組み合った、男らしい人物だ」とか。その根拠となる資料「京都錦小路青物市場記録」について詳しく書かれています。

若冲を含め 7 人の画家について、著者が、作品と文献資料を緻密に読み解き、語っています。従来のイメージにとらわれず、深く知りたい方におすすめです。

作品



『画家の息吹を伝える 原寸美術館』

千住 博／著
小学館 721 カ



『かわいい琳派』

三戸 信恵／著
東京美術 702.1 カ

原寸で観る「紅白梅図屏風」の流水を描いた筆の運び、「動植綵絵 群鶏図」の鶏のトサカや足に描かれた細かい点の集まりはすばらしく、思わず見入ってしまいます。現代の日本画家である千住博さんが一人称を用いながらその画家になりきって書いた解説も興味深いです。

華やかなイメージの光琳をはじめとする琳派の画家の作品ですが、本書の作品は少し違います。

光琳の「竹に虎図」はほのぼのとしたユーモラスな雰囲気を感じさせ、他の画家・作家の作品も丸みある無邪気な作品が並び、作品のかわいさを感じることができます。

琳派の作品にあまり興味なかった方にもおすすめです。



『江戸絵画入門』

河野 元昭／監修
平凡社 721.0 エ

本書は流派、ジャンル別にまとめられているため、俵屋宗達、尾形光琳、酒井抱一と受け継がれた琳派の雅やかな画風の変遷が分かります。中でも光琳の「紅白梅図屏風」は、写真も大きく迫力があります。

若冲も奇想の画家として本書で取り上げられ、若冲が描いた「果蔬涅槃図（かそねはんず）」という墨絵は、お釈迦様がお亡くなりになった時の様子を描写した『涅槃図』の登場人物を野菜に見立てて描いたものであり、釈迦が二股大根、釈迦の母は柚子に例えられ、ユーモアを感じさせます。



絵師の暮らし



『江戸の絵師 暮らしと稼ぎ』

安村 敏信／著
小学館 721.0 エ

裕福な豪商に生まれたが生活が苦しかった光琳、自分の没後の供養代を寄進していた若冲など、江戸時代の絵師のあまり知られていない暮らしづくりが紹介されています。

例えば御用絵師 狩野探幽よりも江戸の町奉行の方が高給取りだったことや、武士以外の子が絵師になるには、藩主にさまざまな貢ぎ物が必要だったことも紹介されています。

ガイド



『日本絵画の 楽しみ方 完全ガイド』

細野 正信／監修
池田書店 721 ニ

室町時代から現代までの、日本画家の巨匠 72 人の名作とその生涯をコンパクトに紹介しています。

光琳の「風神雷神図屏風」と酒井抱一の「夏秋草図屏風」はもともと一つの屏風の表裏だったことも、紹介されています。少しの知識があるだけで、その画家や作品を身近に感じます。絵画鑑賞が楽しみになる一冊です。



岡崎市立額田図書館

☎82-2953

開館時間 9:00~17:00

休館日 水曜日（祝日は開館します）

